

普及に移す品種

[タイトル] 白色に赤紫色糸覆輪の晩生チューリップ新品種「砺波育成 121 号」(仮称) の育成

[要約] 花色が白色に赤紫色糸覆輪のチューリップ新品種「砺波育成 121 号」を育成した。本品種は、咲き始めから赤紫色の糸覆輪が発色し、咲き進んでも覆輪部分が広がらない新規の特性を有する。草姿の揃いが良く、晩生品種として花壇植えに適する。

[キーワード] チューリップ、糸覆輪、晩生、花壇植え

[担当場所・課] 農林水産総合技術センター・園芸研究所・花き課

[連絡先] 電話 0763-32-2259

[背景・ねらい]

チューリップの中生品種は花色が豊富であるが、晩生品種はカラーバリエーションが少ない。そこで、花色として数少ない白色系の晩生品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1 育成経過

1990 年に白色の実生系統「82-86」(Sweet Harmony×Albino)を種子親とし、白色の実生系統「82-90」(Sweet Harmony×Snow Star)を花粉親とした交配を行い、得られた 8,246 粒を実生養成した。1995 年に、白地に赤紫色の糸覆輪部分が、咲き進んでも広がらない特性を持つ本系統を選抜して球根増殖した。2008 年に「砺波育成 121 号」の系統名を付与し、2010 年から 2 年間、特性検定試験を行った結果、実用性が高いと判定された。

2 特性の概要

- (1) 露地での開花期は 5 月上旬で、対照品種の「Magier」や「Albino」とほぼ同時期である(表 1)。花色は、「Magier」の白色に紫色の覆輪が咲き進むと花卉全体に紫色が広がるのに対して、白色に赤紫色の糸覆輪が咲き進んでも広がらない(図 1、図 2)。露地での観賞期間は「Magier」より長い(表 1)。また、草姿の揃いが良く、花壇植えに適する。
- (2) 球根収穫期は 6 月下旬で「Magier」とほぼ同時期である。主球の肥大性は「大」、分球性及び収量性は「Magier」よりやや低いが、収量性は「多」である(表 2)。
- (3) 促成栽培では、開花率が低く、12 月出し促成切り花栽培には適さない(表 3)。
- (4) 土壌伝染性病害の多発ほ場に植付けた場合の微斑モザイク病に対する抵抗性は「強」、条斑病に対する抵抗性は「中」である(表 4)。

[成果の活用面・留意点]

1. 晩生品種として花壇植えに適する。
2. 新たな品種名を決めて品種登録出願予定である。
3. ウイルス病罹病株は健全株と見分けにくいので、赤紫色の糸覆輪が発色しない株や葉のモザイク症状などを目安に抜取り作業を厳重に行う。

[具体的データ]



図1「砺波育成121号」の草姿と花型



図2「Magier」の花色変化

表1 開花時の地上部特性(2010～2011年の2カ年平均)

系統・品種名	花色	開花日 (月/日)	花弁長 (cm)	花弁幅 (cm)	茎長 (cm)	草丈 (cm)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	葉数 (枚)	観賞期間 (日)
砺波育成121号	白に赤紫系覆輪	5/5	6.5	4.9	36.1	30.8	21.9	14.8	4.8	9
Magier	白に紫覆輪	5/6	7.7	5.9	53.9	44.8	25.2	10.0	4.4	8
Albino	白	5/6	7.0	4.8	33.3	31.9	23.6	12.1	4.3	11

供試球サイズ:11cm球

表2 球根収量性(100株当たり:2010～2011年の2カ年平均)

系統・品種名	掘取り日 (月/日)	サイズ別球数					総球数 (球)	総球重 (kg)	ほ場裂皮率 (%)	球根腐敗病 発病率(%)
		≥12cm	11cm	10cm	9～7cm	6cm≤				
砺波育成121号	6/26	73	23	5	82	178	361	5.04	4.4	1.2
Magier	6/26	52	39	18	172	214	495	5.60	30.4	8.3
Albino	6/23	45	29	37	177	225	513	5.60	18.1	0

供試球サイズ:9cm球

表3 早期促成栽培適応性(2010～2011年の2カ年平均)

系統・品種名	開花日 (月/日)	開花率 (%)	花弁長 (cm)	茎長 (cm)	草丈 (cm)	葉長 (cm)	脚長 (cm)	切り花重 (g)
砺波育成121号	12/21	49.2	5.2	35.1	35.2	19.3	6.4	23.1
Magier	1/7	100	6.2	55.5	46.3	20.7	5.6	32.1
Albino	12/24	100	5.4	31.2	32.4	15.9	4.5	25.8

供試球サイズ:11cm球

表4 微斑モザイク病及び条斑病抵抗性検定

系統・品種名	微斑モザイク病感染率 (%)	条斑病感染率 (%)
砺波育成121号	11.3 (2008～2010年の3カ年平均)	16.4 (2008～2010年の3カ年平均)
Magier	38.5 (2001～2003年の3カ年平均)	11.4 (2002～2003年の2カ年平均)
Albino	5.2 (2006～2008年の3カ年平均)	48.2 (2006～2008年の3カ年平均)

[その他]

研究課題名: チューリップ新品種育成・開発

予算区分: 県単、国委(新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業)

研究期間: 2011年度(1990～2011年度)

研究担当者: 浦嶋 修、村上欣治(元農業技術センター野菜花き試験場)、今井 徹(広域セ)、辻 俊明、木津美作絵(新川農振セ)、飯村成美(広域セ)、池川誠司(農産食品課)、西村麻実、井上徹彦(高岡農振セ)、天橋 崇(高岡農振セ)、石黒 泰